

都市再生整備計画 事後評価シート

船場公園周辺地区

令和7年2月

北海道留萌市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	留萌市		地区名	船場公園周辺地区				面積	10 ha			
交付期間	令和3年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	658百万円		国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道早道通り・東岸通りの改良)、地域生活基盤施設(駐車場、案内看板)、高次都市施設(観光交流センター、子育て世代活動支援センター)												
		提案事業	地域創造支援事業(アンテナ型チャレンジ広場開設事業)、事業活用調査(事業効果分析調査事業)、まちづくり活動推進事業(地域ブランド創出事業、コンシェルジュ機能整備事業、子ども体験活動事業)												
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業													
		新たに追加 した事業	基幹事業												
		提案事業													
	交付期間 の変更	当 初	令和3年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響										
変 更		—													
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	観光客の入込数口	千人/年	280	H30	362	R6		449 (見込み)	○	あり ● なし	「道の駅るもい」の登録、「ちやいるも」のオープン、深川・留萌自動車道の全線開通など、コロナ禍の逆風の中、来訪者は大きく増加した。	R7年9月頃		
	指標2	市民の特産品に対する評価	—	2,146	R1	2.5	R6		2,368	△	あり ● なし	道の駅の開業により、特産品の販売が伸び、ある程度の効果は認められたが、市民全体にその意識が高まるまでには至らなかったと考える。			
	指標3	公園の整備・緑化に対する評価	—	2,188	R1	2.5	R6		2,197	△	あり ● なし	船場公園の市民利用の拡大が思ったほど図られなかったことが要因として考えられる。			
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の 数値指標1	物販・飲食店舗 売上実績	千円	74,665	R2				134,570			「ちやいるも」のオープン、深川・留萌自動車道の全線開通などにより、道の駅内の飲食・物販店舗の売上は大きく増加した。			
	その他の 数値指標2	道の駅るもい 芝生広場利用許可利用者 数	人	2,073	R2				2,739			「ちやいるも」のオープン、深川・留萌自動車道の全線開通などにより、道の駅るもいの芝生広場許可利用者数は増加した。			
その他の 数値指標3															
4)定性的な効果 発現状況															
5)実施過程の評価				実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング							都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による 取組			・コンシェルジュ機能整備事業の実施 ・子ども体験活動事業の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も市民や来訪者の意見を聞いて、引き続き官民連携によるおもてなしや情報発信に取り組むとともに、事業の継続を図る。			
	持続的なまちづくり 体制の構築			・アンテナ型チャレンジ広場開設事業の実施 ・地域ブランド創出事業の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 活動の場は市が整備したが、その場を活用した活動展開は民間事業者主体で継続を図る。			

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道早道通り(車道大型標識)口	17	3基	9	3基	実績(入札結果)の反映(入札差金)等	影響なし	●	
道路	市道早道通り(バスレーン)口	41	6カ所	27	6カ所	実績(入札結果)の反映(入札差金)等	影響なし	●	
道路	市道早道通り(歩道部バリアフリー化)	22	L=150×2カ所	49	L=150×2カ所	実績(入札結果)の反映等	影響なし	●	
道路	市道早道通り(車道部右折レーンカラー舗装)	7	1カ所	2	1カ所	実績(入札結果)の反映(入札差金)等	影響なし	●	
道路	市道東岸通り(車道部右折レーンカラー舗装)	6	1カ所	2	1カ所	実績(入札結果)の反映(入札差金)等	影響なし	●	
地域生活基盤施設	第2駐車場	20	4,400㎡	22	4,400㎡	事業費の増(駐車場内への案内看板の設置)	影響なし	●	
地域生活基盤施設	案内看板	5	1基	6	1基	実績(入札結果)の反映等	影響なし	●	
高次都市施設	観光交流センター(屋内交流・遊戯施設)	202	305㎡	203	305㎡	実績(入札結果)の反映(入札差金)等	影響なし	●	
高次都市施設	子育て世代活動支援センター(屋内交流・遊戯施設)	317	479㎡	319	479㎡	実績(入札結果)の反映等	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	アンテナ型チャレンジ広場開設事業	9		6		アンテナショップの入札結果の反映及びチャレンジショップの入札結果の反映、設置期間の短縮(12ヶ月から6ヶ月)による契約金額の減	影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査事業	3		3				●	
まちづくり 活動推進事業	地域ブランド創出事業	3		3				●	
	コンシェルジュ機能整備事業	6		6				●	
	子ども体験活動事業	3		3				●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
道の駅るもい駐車場拡張事業		道の駅るもい(一般国道231号)	-	-	令和2年度～3年度	令和2年度～3年度	令和3年度に直轄事業で整備完了。広域的な災害時に一般車の利用を禁止・制限する防災拠点自動車駐車場にも指定され、当市の防災機能も強化された。	
道の駅るもい防災倉庫設置事業		道の駅るもい(一般国道231号)	-	-	令和2年度～3年度	令和2年度～3年度	令和3年度に直轄事業で2棟整備完了。災害時における防災拠点として必要な資機材等が整備され、相互に利用できるよう協定を締結し運用。	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	観光客の入込数	千人/年	令和6年度北海道観光入込客数調査の留萌市の観光入込客数を把握する。しかし計測時点では、令和6年度は調査中であることから、現時点における最新データである令和5年度を評価値(見込み)とする。	271	H22	280	H30	362	R6	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定 見込み	●	449	事後評価	○	
指標2	市民の特産品に対する評価	—	令和6年度の市民まちづくりアンケートで「魅力ある特産品が創出されており、その消費拡大が図られている」と感じている市民実感度(加重平均値)を評価値とする。	—		2.146	R1	2.5	R6	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	2.368	事後評価	△	
指標3	公園の整備・緑化に対する評価	—	令和6年度の市民まちづくりアンケートで「公園の整備・緑化の推進への取組みが十分行われている」と感じている市民実感度(加重平均値)を評価値とする。	—		2.188	R1	2.5	R6	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み	●	2.197	事後評価	△	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値は令和6年度で362千人/年であるが、令和5年時点で既に449千人/年に達しており、船場公園全体が道の駅として登録されたことや高次都市施設である「ちゃいるも(観光交流センター、子育て世代活動支援センター)」のオープンなど、コロナ禍の逆風の中で、期待以上の成果を上げることができた。	
指標2	従前値より数値は伸びており、道の駅るもいの開業により、特産品の販売が伸びるなど、市民の実感としてもある程度の効果は認められたと考えるが、1年以内の達成見込みは厳しいと判断する。	
指標3	従前値より数値は微増にとどまっており、市内の公園のひとつである船場公園だけの評価ではないこともあり、1年以内の達成見込みは厳しいと判断する。	指標として採用した市民まちづくりアンケートの「公園の整備・緑化の推進への取組みが十分行われている」であるが、船場公園における取組評価以外の、市民に身近な公園の整備・緑化に対する回答要素が大きかったと想定される。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○:評価値が目標値を上回った場合
△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	物販・飲食店舗 売上実績	千円	各店舗から報告のあった、道の 駅内チャレンジショップ、ちやい るもにおける物販・飲食施設に 係る1年間の売上実績を評価値 とする。	-	-	74,665	R2	モニタリング			道の駅るもいの開業により、留 萌の食の販促につながってい るかどうかを計測するため。	
								事後評価	確定 見込み	○		
その他の 数値指標2	道の駅るもい 芝生広場利用許可利 用者数	人	利用許可申請に基づいた利用 者数について、指定管理者にお いて、口頭により計測しており、 年間の利用者数を評価値とす る。	-	-	2,073	R2	モニタリング			「公園」機能の付加価値を高 め、子どもがのびのび遊び成長 できる環境と、子育て世帯など 若い世代が集う賑わいあふれ る拠点としての効果を計測する ため。	
								事後評価	確定 見込み	○		
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・コンシェルジュ機能整備事業の実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●【実施頻度】計13回(コンシェルジュ養成研修10回、視察・セミナー等3回) 【実施時期】令和3年度～令和4年度 【実施結果】道の駅を訪れる利用者に対し観光コンシェルジュの養成やホームページ等による情報発信等、道の駅を起点とした交流人口の拡大や市街地への誘客促進に取り組むことができた。	今後も市民や来訪者の意見を聞いて、引き続き官民連携によるおもてなしや情報発信に取り組む。
・子ども体験活動事業の実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●【実施頻度】計9回 【実施時期】令和3年度～令和5年度 【実施結果】市内小学生を対象にした留萌地域の自然環境や職業の魅力を学ぶことができる体験プログラムは毎回好評であり、地域の魅力を実感することで将来のまちづくりの人材育成にもつながるものと思われる。	今後も官民連携により、事業の継続を図る。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
・アンテナ型チャレンジ広場開設事業の実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●地場産品や農水産品等を取り扱うチャレンジショップや移住・支援コーディネート機能を有するコワーキングスペース等を含むモジュール(移動型の多目的施設)を設置。	留萌市・市内民間事業者	活動の場は市が整備したが、その場を活用した活動展開は民間事業者主体で継続を図る。
・地域ブランド創出事業の実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●道の駅るもいにおける新たな地域ブランドを創出し、道の駅るもいを拠点として市民及び市内外の観光客など交流人口拡大を図る。	NPO法人留萌観光協会、市内民間事業者	観光協会を中心に地域主導による体制構築を図り、市は後方支援に徹する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4ー① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
留萌市道の駅整備検討プロジェクトチーム	関係各課係長級職員 地域振興部 政策調整課・経済観光課 都市環境部 都市整備課・建築住宅課	令和6年12月26日	地域振興部 経済観光課

添付様式4ー② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1							
指 標 名		観光客の入込数							
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道早道通り)	○	令和2年3月に船場公園全体が「道の駅るもい」として登録され、さらに令和4年4月には、「ちやいるも(高次都市施設 観光交流センター及び子育て世代活動支援センター)」がオープン。 また、深川市と留萌市を結ぶ自動車専用道路、深川・留萌自動車道が令和2年3月に留萌ICまで全線開通し、市外からのアクセス環境が大きく向上したことなどもあり、コロナ禍の逆風の中、留萌市への来訪者は大きく増加した。						
	道路(東岸通り)	○							
	地域生活基盤施設(第2駐車場)	◎							
	地域生活基盤施設(案内看板)	○							
	高次都市施設 観光交流センター	◎							
	高次都市施設 子育て世代活動支援センター	◎							
提案事業	地域創造支援事業(アンテナ型チャレンジ広場開設事業)	◎							
	事業活用調査(事業効果分析調査事業)	◎							
	まちづくり活動推進事業(地域ブランド創出事業)	◎							
	まちづくり活動推進事業(コンシェルジュ機能整備事)	◎							
	まちづくり活動推進事業(子ども体験活動事業)	○							
関連事業	道の駅るもい駐車場拡張事業	◎							
	道の駅るもい防災倉庫設置事業	○							

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後は観光体験メニューやアウトドア体験メニューの開発など、来訪者のみならず市民利用も含めて、更なる交流人口の拡大を図る。			
-------	--	--	--	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3								
指 標 名		市民の特産品に対する評価			公園の整備・緑化に対する評価								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道早道通り)	—	道の駅るもいの開業により、特産品の販売が伸びるなど、市民の実感としてもある程度の効果は認められたと考えるが、市民全体にその意識が高まるまでには至らなかったと考える。	Ⅰ	—	船場公園の市民利用の拡大が思ったほど図られなかったことが要因として考えられる。一方で、指標の市民まちづくりアンケートの「公園の整備・緑化の推進への取組みが十分行われている」であるが、市民に身近な公園の整備・緑化に対する回答要素が大きかったと想定される。	Ⅰ						
	道路(東岸通り)	—			—								
	地域生活基盤施設(第2駐車場)	—			—								
	地域生活基盤施設(案内看板)	—			—								
	高次都市施設 観光交流センター	△			△								
提案事業	高次都市施設 子育て世代活動支援センター	—			△								
	地域創造支援事業(アンテナ型チャレンジ広場開設事業)	△			△								
	事業活用調査(事業効果分析調査事業)	—			—								
	まちづくり活動推進事業(地域ブランド創出事業)	△			—								
	まちづくり活動推進事業(コンシェルジュ機能整備事)	△			—								
関連事業	まちづくり活動推進事業(子ども体験活動事業)	—			—								
関連事業	道の駅るもい駐車場拡張事業	—			△								
	道の駅るもい防災倉庫設置事業	—			—								

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	今後は、地場産品の更なる情報発信や消費拡大に向けた活動展開を図るとともに、市民も巻き込んだ新商品開発など地域が一体となって魅力ある特産品を創出していく体制づくりを図る。	モンベルアウトドアヴィレッジるもいの整備などにより、モルックなどの新しいスポーツやアウトドア体験など船場公園の魅力を高め、市民の利用機会をさらに高める取組を推進する。		
------------------	--	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
留萌市道の駅整備検討プロジェクトチーム口	関係各課係長級職員 地域振興部 政策調整課・経済観光課 都市環境部 都市整備課・建築住宅課	令和6年12月26日	地域振興部 経済観光課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①道路交通の結節点として、 多様な来訪客ニーズに対応し た交通環境を創出し、まちな かに誘導することが必要であ る。	深川自動車道の留萌ICまでの延伸、道の駅やちいもの開業、駐車場の拡張整備など、交通結節点として多様な来訪客ニーズに対応した交通環境は創出できた。	船場公園への集客は出来ているが、それがいわゆる留萌の中心市街地、まちなかに誘導できているか、については課題として残っている。	特になし
②留萌管内の玄関口として、 留萌の地域資源を活用した魅 力的なブランドを構築し、新た な集客機能と通年での観光利 用や、情報発信する広域交流 拠点を創出することが必要で ある。	道の駅やちいもの開業、駐車場の拡張整備など、広域交流拠点としての機能を果たすことができた。	通年での観光利用については、多雪地域である本市の特性上、冬期のアクセスに難があることから、課題として残っている。	
③公園施設の活用と一体的 に、子どもの遊び場づくりや、 子育て世帯を支援する環境を 整備し、若い世代や親子、家 族をターゲットとした観光客等 の受入増加につなげることが 必要である。	ちいもの開業により、子育て世代を中心とした受入増加は図られている。	ちいものと公園施設の一体的な活用については、課題として残っている。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり
方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	道の駅るもいの更なる魅力の向上	モンベルアウトドアヴィレッジるもいの展開により、道の駅るもいの集客能力を高めるとともに、アウトドア体験などの新たな観光商品の開発など、その効果を管内全体に波及させていく。	・モンベルアウトドアヴィレッジ整備事業 ・体験型観光商品開発事業

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	道の駅るもいの市民利用の促進	船場公園を活用したアウトドアやモルック体験、フォトロゲイニングなど定期的なイベントの開催により、市民が日常的に楽しめるメニューを提供する。	・定期的なイベント開催
	道の駅るもいからまちなかへの誘導方策	観光入込客数は着実に増加しており、道の駅るもいの集客効果が大きいものと考えられる。道の駅に來た來訪者をまちなかに誘導し、地域全体の活性化に繋げていく。	・旧留萌駅前へのアクセス通路の整備 ・スタンプラリー、フォトロゲイニングなど道の駅とまちなかを回遊させるイベントの開催

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

旧留萌駅前周辺地区において検討が進められている新交流複合施設整備と道の駅るもいは一体的なまちづくりを展開していくことが求められる。深川・留萌自動車道の全線開通、道の駅の開業、JR留萌線の廃止など留萌市を取り巻く社会経済環境、都市構造は大きく変動している。都市構造の変化を踏まえ、新たなまちづくりに向けてさまざまに展開する事業を俯瞰的に位置づけ、事業効果を最大限に活かす新たなマスタープランの作成が必要である。

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度		確定	見込み			あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	観光客の入込数	千人/年	280	H30	362	R6	確定	見込み	449	○	あり	●	R7年9月頃	令和6年度北海道観光入込客数調査結果公表後に速やかに計測する	
指標2	市民の特産品に対する評価	—	2.146	R1	2.5	R6	確定	見込み	2.146	△	あり	●			
指標3	公園の整備・緑化に対する評価		2.188	R1	2.5	R6	確定	見込み	2.188	△	あり	●			
その他の数値指標1							確定	見込み							
その他の数値指標2							確定	見込み							
その他の数値指標3							確定	見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		市民アンケートは継続性が重要であるが、このような事業評価のための設問を臨時的に追加できるとモニタリングもしやすくなるものと思われる。
	うまく いかなかった点	市民アンケートによる市民意識を指標として採用したが、アンケートそのものが事業について聞いているわけではないため、成果が達成されたかを測る指標としては再考が必要である。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		PDCAサイクルによる事業を進めるためには、モニタリングの実施を位置づけた方がよい。
	うまく いかなかった点	モニタリングの実施を計画に位置づけていなかったため、年度ごとの事業の反省点等を次年度に活かすことが出来ていなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

当該地区において新たに庁舎機能(4施設の統合化)とホール・公民館機能(研修会議室)、市民が交流できる機能、交通結節機能などを複合化した「新交流複合施設」の整備を計画しており、旧JR留萌駅舎跡地、現駐車場敷地、JRから譲渡予定の線路用地などを計画区域に編入を検討している。
この整備により駅前側から駅裏(船場公園、道の駅るもい)へのアクセスの改善と考えている。
現在は基本構想が完成しており、今年度中に基本計画策定に着手し、令和7年度中に完成の予定。
敷地については、JRから譲渡される土地の一部はアウトドア関係施設整備に利用のため、新交流複合施設整備敷地には含めていない。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和7年1月10日	1カ月間	担当課への 電話、FAX、電子メール	経済観光課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					
住民の意見	特になし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員		第1回 令和6年10月30日 (方法書説明)	政策調整課	留萌市の「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定及び策定後の施策の推進・検証にあたり、幅広い分野の関係団体等と協議を行うために設置	留萌市地方創生協議会
その他の委員	留萌商工会議所、北海道留萌振興局、留萌市校長会、留萌信用金庫、北洋銀行、北海道銀行、連合北海道留萌地区連合会、エフエムもえる、地方創生もい市民会議	第2回 令和7年2月13日 (事後評価報告・審議)			

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	「成果の評価」、「実施過程の評価」、「効果発現要因の整理」、「事後評価原案の公表の妥当性」については、協議会における審議において、妥当である旨の確認を得られた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	「今後のまちづくり方策」については、協議会における審議において、妥当である旨の確認を得られた。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。